

病害虫情報 No. 9

水田周辺でクモヘリカメムシの発生が確認されています カメムシ類の発生を確認した水田では防除を徹底しましょう

作物名 : 水稻, 陸稻
病害虫名 : クモヘリカメムシ

[現在の状況]

- 7月下旬現在, 水田周辺のイネ科雑草における発生は平年並であるが, 本県の水田で最も多く被害を及ぼすクモヘリカメムシの発生が多い地点が確認されている。
- 水田周辺のイネ科雑草にカメムシ類の生息が認められる地点では, 稲の出穂とともにこれらが水田に侵入すると予測される。

表1 イネ科雑草地におけるクモヘリカメムシの発生状況 (7月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)			すくい取り虫数の平均 頭/10回振り			発生程度別地点数				
	本年	平年	順位	本年	平年	順位	甚	多	中	少	無
県北 (29)	21	24	5/8	4.9	5.1	4/8	2	0	1	3	23
鹿行 (6)	0	23	7-8/8	0	1.5	7-8/8	0	0	0	0	6
県南 (19)	21	5	1/8	4.7	0.4	1/8	0	2	0	2	15
県西 (12)	9	4	2/8	0.5	0.2	2-3/8	0	0	0	1	11
全県 (66)	17	18	4/8	3.7	3.3	3-4/8	2	2	1	6	55

注)少発生:すくい取り虫数が10頭以下, 中発生:11~30頭, 多発生:31~50頭, 甚発生:51頭以上

[防除対策]

- 出穂が周辺より早い水田では成虫の飛来が集中しやすい。すでに出穂を迎えている水田では発生に注意する。
- 稲の出穂直前~出穂後に畦畔等を除草すると, 水田へカメムシ類を追い込むことになり, 被害が大きくなるので行わない。
- 出穂期~穂揃期に多数の成虫を確認した場合は防除を行う。水稻の生育は平年より進んでいるため, 防除時期が遅れないようにする。
- 幼虫の防除適期は, 出穂 20 日後位までが目安である。

表2 カメムシ類の主な防除薬剤 (平成19年7月18日現在)

薬剤名	施用量または 希釈倍数	収穫前日数- 剤の使用回数	有効成分名	有効成分の 総使用回数
スミチオン乳剤	1,000 倍	21-3	MEP	4※
MR.ジョーカーEW	2,000 倍	14-2	シラフルオフェン	2
キラップフロアブル	1,000~2,000 倍	14-2	エチプロール	2

※但し, 種もみへの処理は1回以内, 育苗箱散布は1回以内, 本田では3回以内

農薬の使用にあたっては, 農薬ラベルに記載の使用方法・回数・注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また, 薬剤散布の際は, 周辺作物への飛散(ドリフト)に十分注意して下さい。